

沖縄の可能性と現実の乖離を埋めるもの



(6月のごあいさつ その2)

平成23年6月13日(月)

「6月のごあいさつ」についてコメントをいただくことが多かった。また、5月は忙しさにまぎれてできなかつたので、「6月その2」としてお送りします。

沖縄の可能性ということについて考えたり、意見のようなものを持ったのは、この4月に与世田先生の副知事室を見せていただいてからだ。

その時、先生から**沖縄の産業振興、税制面**からの意見はどうか、などと示唆を受けて考え始めた。それとその後、県の振興審議会の産業部会の委員にいただいたこともあって**沖縄の産業振興**に興味を持ってきた。

連休中も本を読んだりしたがなかなかまとまらず、取り敢えず5月31日までに文書にして見たが、部分的というか、全体的にまとまったものになっていない。

沖縄の将来の可能性については、既に経済同友会や県の21世紀ビジョンなどにかかげてある。それらを自分なりに経済、産業の面から加除してみると、**観光産業、情報通信産業、自由貿易地域、国際物流基地、金融特区、エコアイランド、平和の島(国連施設の有力候補として)**であると考えた。これらの産業等を**将来の沖縄のリーディング産業**として構築すべきである。

しかし、これらの将来の可能性と沖縄の現状との間には大きな乖離を感じる。

可能性と現実の乖離を埋めるものは何か。この点をお二人の方と議論した。一人は県の海外事務所の方、もう一人は総合事務局の方である。それぞれの方と、立話的な短い時間であったが、私たち三人の結論は、「それは**戦略である**」であった。**戦略とは何か**、簡単に述べると(1)自主自立の精神と(2)他者への役立ちと貢献と(3)そして**基礎的なものの積立**である。自主自立の精神を持って、沖縄のため、本土のため、海外のために**沖縄が何かで役に立つことが必須**、ということである。話の後、それぞれと確信を持ってうなずき合った。

自立し、他者の役に立つためには何をするか。

沖縄は全国と比較してきわめて**有利な社会的、経済的条件**がある。

「人口増加率」、「年齢構成の若さ」、「歴史的経験の豊かさ」、
「地理的位置の重要性」、「地理的位置の優位さ」、「気候条件の優位さ」、
「エコアイランドとしての環境の優秀性」、「平和指向」(国連施設候補)

これらの条件は全国一といっても過言ではなく、**将来の経済及び産業的発展**の大きな基盤となり、沖縄社会を充実させる可能性がある。

これらの条件を自主的に、徹底的に活かして、経済と産業の概念を広げて**一国二制度的な発想**を持って沖縄の経済、産業の将来を構築すべきである。